

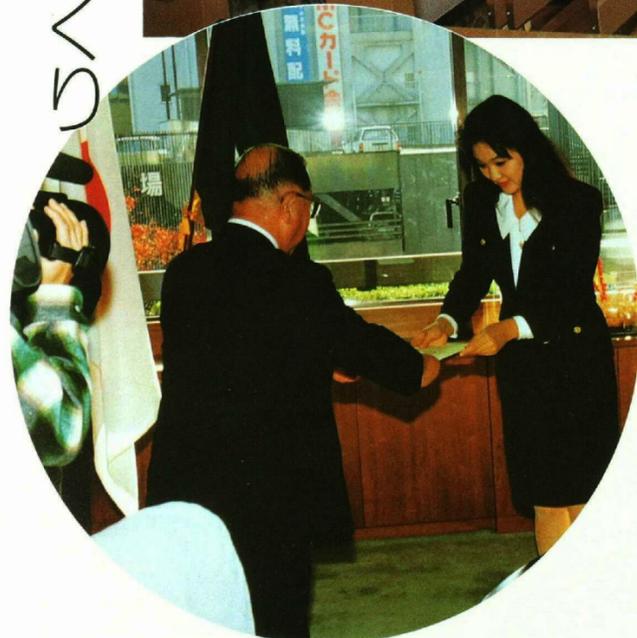
21世紀を担う  
人づくり



創造的な人づくり



伝統的な織物肥後絣の復元 (伝承文化部門)



人づくり基金交付式

市制100周年記念人づくり基金制度

平成元年の市制施行100周年を記念して、市民各層から寄せられた多額の浄財とふるさと創生資金をもとに「熊本市制100周年記念人づくり基金」を創設しました。

この人づくり基金は、来るべき21世紀に向けて、熊本市が更に飛躍・発展するために、様々な分野において指導者として活躍する、国際感覚を備えた創造性豊かな人材を育成することを目的とし、

1. 環境の保全と創造
2. 国際交流
3. 社会福祉
4. 伝承文化の継承

5. その他

の各分野に積極的に貢献する個人・団体を対象に、平成3年度から毎年2回(前期2月、後期8月)の募集を行い、研修・研究活動等への援助を実施しています。

平成5年度には前後期合わせて29件の申し込みがあり、人づくり基金選定委員会における審議の結果、12件の個人・団体の方々が援助を受け、様々な研修活動を行いました。

これまで64件の熱意ある個人・団体の方々が援助を受けられ、それぞれの分野で研鑽を積み、ふるさと熊本のため、素晴らしい活躍をされています。



活力あふれる  
交流拠点都市を目指して

本市は、優れた個性を生かし、多様な都市機能の集積を図り、世界に開かれた人・物・情報の活発な交流拠点を形成する。また、未来を開く新しい技術や情報を活用し、多様な産業活動が活発に営まれ、国際社会の平和と繁栄にも貢献する都市を目指す。



HUMAN CITY KUMAMOTO

開かれた  
交流拠点の形成



# 国際交流

活あふれる交流拠点都市を目指す本市は、中国・桂林市、アメリカ・サンアントニオ市並びにドイツ・ハイデルベルク市と友好姉妹都市の盟約を結び、経済・文化・スポーツ等幅広い分野に亘る交流を展開しています。

平成5年秋開催された火の国フェスタ・くまもと'93には、三つの友好姉妹都市より代表団・芸能団が来熊、またハイデルベルク市、サンアントニオ市からは、市民友好の翼として一般市民の方々の参加も多数あり、更に友好の輪が広がりました。

また、中国の珍獣金縷猴の熊本市動植物園における長期学術共同研究をはじめ、青少年交流や医療分野での交流が継続されます。

平成5年3月には(財)熊本市国際交流振興事業団を設立する一方、交流拠点としての熊本市国際交流会館(仮称)の建設を進める等、市民レベルでの国際交流を促進し、国内外の人々のニーズに対応するため、様々な事業に取り組んでいます。

## 中国・桂林市

昭和54年10月の友好都市締結以来、多方面にわたる活発な交流が続け

られています。平成5年には桂林市から流通研修生や青年企業家のほか、初めて中・高校生訪問団を迎え、また、本市からは市民友好の翼や高校生訪問団を派遣するなど両市の相互理解と友情を一層深めました。

今後も幅広い分野での相互交流を予定しています。

## 米国・サンアントニオ市

昭和62年の姉妹都市締結以来、友好の輪が大きく広がる中、平成5年には熊本市友好代表団の派遣をはじめ、高校生、大学生の交換留学、少年野球チームの来熊、エイズシンポジウムの開催など様々な交流を通し、両市の絆が一層強まりました。

今後も経済、学術など多様な交流事業が予定されています。

## ドイツ・ハイデルベルク市

平成4年5月、30年近くの永い友情が実り友好都市協定調印が実現しました。

平成5年には、医療交流の一環として熊本市市民病院の医師を派遣し、ハイデルベルク市からは2名の看護婦が来熊しました。10月のヴェーバー市長の来熊時には医療交流基金基本協定の調印もとり行われました。

また、本市で開催された全国都市問題会議におけるヴェーバー市長の講演やハイデルベルク市青少年団の来熊、本市からは少年サッカー訪問団派遣など、着実に友好関係が深まっています。

本年も引き続き、スポーツ、医療、環境等の分野で幅広い交流が予定されています。

## 国際化への対応

近年、急速に高度情報化、国際化が進展する中で、本市においても諸外国の現状を正



長期学術共同研究のため永久借展した室堂と真風

しく認識し、市民一人ひとりが心と心の交流を通して世界的視野と国際感覚を身に付けることが必要となってきています。

また、本市を訪れる外国人は増加の一途をたどり、国際交流事業へのニーズは多様化する一方です。

このような中、民間活力と市民の創意工夫による国際交流を進めるため、世界に開かれた「国際都市・くまもと」を目指して、財団法人熊本市国際交流振興事業団を設立しました。

平成5年度は、事業団として市民友好の翼の派遣をはじめ、ホストファミリー登録制度の発足や、火の国まつりへの参加、留学生の施設めぐり等の事業を実施しました。

また、より多くの市民や外国人が自由に交流できる拠点、国際交流に関する情報提供の場として、熊本市国際交流会館(仮称)を建設中で、平成6年秋にはオープン予定です。

今後、このようなソフト、ハード両面の充実を図りながら様々な交流事業に取り組めます。



火の国フェスタでのマリアッチの演奏

HUMAN CITY KUMAMOTO

開かれた  
交流拠点の形成



# 観光・コンベンション

九州の中央に位置する本市は、東に「阿蘇くじゅう」西に「雲仙天草」の二大国立公園を望み、九州国際観光ルートの要衝として国際色豊かな魅力ある都市へと変貌しつつあります。

「国際観光モデル地区」にも指定され、九州の一大観光拠点として年間545万人もの観光客が訪れています。

## 豊かな観光資源

豊かな自然と歴史に彩られた街、くまもと。数多くの観光資源の中でも、熊本の歴史的財産であり、日本三名城のひとつである「熊本城」をはじめ、清冽な地下水の湧く名園「水前寺成趣園」、細川ガラシャの眠る「立田自然公園」、剣聖宮本武蔵が兵法五輪書を著した「霊巖洞」(五百羅漢)、そして夏目漱石、小泉八雲、徳富蘇峰・蘆花など明治の文豪の足跡など、歴史的・文学的観光資源が数多く残されています。

また、江戸時代の貴重な上級武家屋敷「大名屋敷・旧刑部邸」を熊本城三の丸史料公園整備の一環として博物館隣に移築・復元したほか、豊かな水と緑が残る金峰山一帯の観光整備も行っています。

## 都市型観光への転換

年々変わる観光に対する意識や旅行形態に対して、本市では豊かな観光資源を生かし、利便性・快適性の整備と同時に都市景観を含めた都市型観光への転換を進めています。熊本城を中心としたシンボルゾーンや長堀通りの整備、景観にあわせた電停表示塔を設置しています。また熊本城内をきめこまかく案内するレディースガイドの導入など都市の魅力向上とふれあいのある、心に残る観光地づくりを目指しています。

## 広域観光ルート

九州観光の一体的振興・発展を図るため、九州の主要都市と連携し国内及び海外からの観光客誘致に努めています。「九州横断ルート」「九州縦断ルート」「長崎～熊本ルート」などの広域観光ルートを通じて、九州観光モデルコースや本市の魅力在国内・海外にPRしています。

## 金峰山・有明海沿岸観光開発基本計画

金峰山から有明海にかけての豊かで雄大な自然を貴重な観光資源として、育成・活用を図りながら今後の産業振

興の一環として、また熊本市の新たな観光の核として、自然環境に配慮した総合的な開発を推進しています。

具体的には、海洋資源の魅力を最大限に引き出し、有明海における海洋拠点とする海洋水族館や水産技術センター、合併を記念した記念公園、また有明海を眺望したみかんの丘一帯を有効利用するため、みかんを核とした総合的な施設整備などです。

## 観光人づくり

観光関連産業に従事する経営者から第一線で活躍する社員まで、ホテル・旅館・タクシーなど各業界ごとに経営問題・部下育成・接客接遇等について研修を実施し、受け入れ体制や顧客意識のより一層の充実を推進しています。

## 国際観光の振興

外国人観光客の誘致及び受け入れ体制の整備充実を図るため、海外での観光展参加をはじめ、海外の旅行雑誌への広告掲載、海外向けポスターやパンフレットの制作、来熊外国人への観光案内所や英文併記の案内板を設置し、世界に開かれた国際交流都市づくりを進めています。



本妙寺



立田自然公園「仰松軒」

水前寺成趣園

国際交流の拠点となる国際交流会館(仮称)





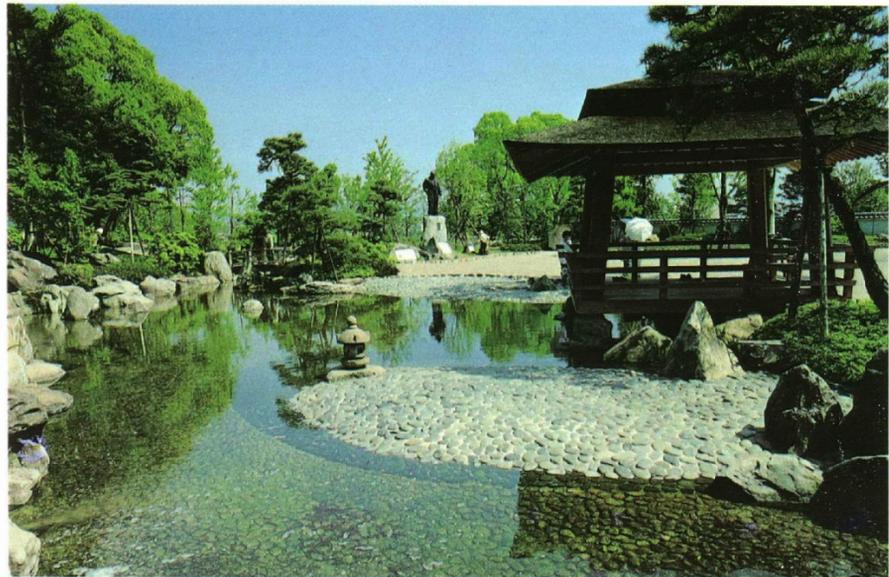
四時軒



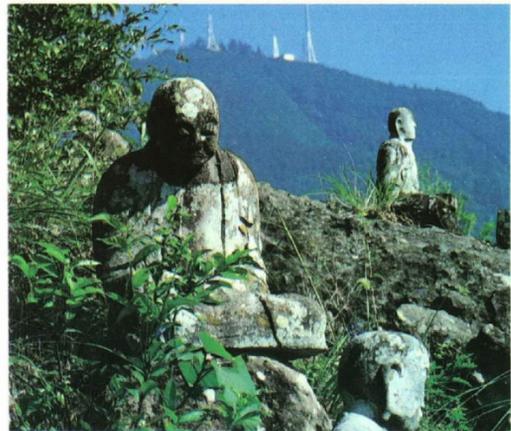
夏目漱石旧居



徳富旧邸



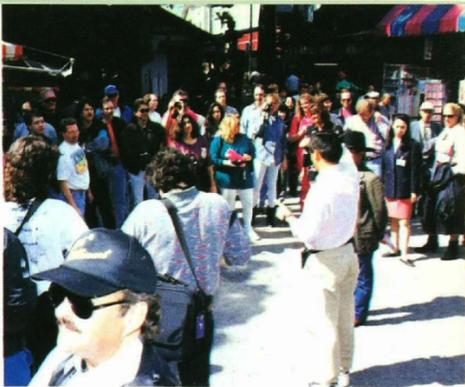
武蔵塚公園



五百羅漢



熊本城



観光案内の通訳ボランティア

### コンベンションの振興

本市では、コンベンション誘致の実効を図るため平成3年11月に市・県・民間企業団体からの出捐をあおぎ財政基盤の充実した財団法人熊本国際コンベンション協会を設立し、国内外の各種学会・大会等の誘致支援事業等に取り組み、コンベンションの準備・企画段階から運営までの相談に応じています。支援体制の中では、特に市民ホスピタリティを活用するコンベンションボランティア制度の充実を力を入れています。

平成5年度の本市でのコンベンションは、国際コンベンション10件を含む約300件、約13万5千人の開催及び参加が見込まれていますが、特に「火の国フェスタくまもと'93」開催期間に大規模コンベンションが集中したのが特徴です。

## 燃えるくまもと 火の国まつり

8月11日から13日までの3日間、暑い熊本の真夏を一層熱く燃えさせた“火の国まつり”。

まつりのハイライトは、なんといっても12日の「おてもやん総おどり」おなじみのメロディーのおてもやんと激しいサンバおてもやんのリズムが街中に響きわたり、真夏の夜の熱気を盛りあげます。フィナーレの花火大会までたのしい催しがいっぱいです。

県外の観光客や外国人、九州各市からのおどり隊も参加する今や国際色豊かな市民総参加の夏まつりです。



開かれた  
交流拠点の形成



# 流通・情報拠点

## 熊本流通団地

本市の卸売業、運輸業、倉庫業等の広域流通拠点施設として整備を進めていた流通団地は、平成3年度に97社が入居を終え全面稼働し、今後、本市の広域流通拠点として地域経済の活性化に大きな役割を果たすことが期待されています。また、団地内には流通情報の発信拠点となる熊本流通情報会館が平成元年4月にオープンし、セミナー、研修、経営相談等を通して、企業経営の近代化、合理化を支援しています。

さらに、昭和62年に設立された第3セクターである熊本流通情報センターの事業等により、広域流通ネットワークシステムの構築や商店街POS等の普及を図り、中小企業の情報化を積極的に支援しています。

## 流通情報センター

大都市圏と地方の情報格差を是正するため、通産省が昭和59年ニューメディア構想を提唱しました。



熊本流通団地

この構想は、全国的にバランスのとれた情報化及び地域コミュニティのニーズに即応した情報システムの構築と普及を目的としています。

そこで、熊本市では構想のモデル地域として指定を受け、その推進母体として国・県・市・民間の出資による熊本流通情報センターを第三セクターで設立しました。

熊本流通情報センターのモデルテーマは、「広域流通ネットワークシステム」の開発と情報化の推進です。

現在、小売業と卸売業の間を結ぶ受発注オンラインシステムや、上通・下通・新市街の三商店街を対象にした商店街POS等の情報処理サービス及び流通関連のシステム開発を中心に事業を展開しています。

## テレトピア

熊本市は、昭和60年に、益城町と共に郵政省よりテレトピア構想のモデル地域の指定を受け、熊本情報案内システム（ローカルキャプテン）、熊本県健

康管理システム、図書館情報ネットワークシステム、テクノポリス技術情報システム、熊本市総合情報システムの5つのシステムを構築しました。更に平成元年度には、ヒューマンコミュニティネットワークシステム（ケーブルテレビ）も新たに追加し、高度情報化社会に対応した地域情報化を推進しています。

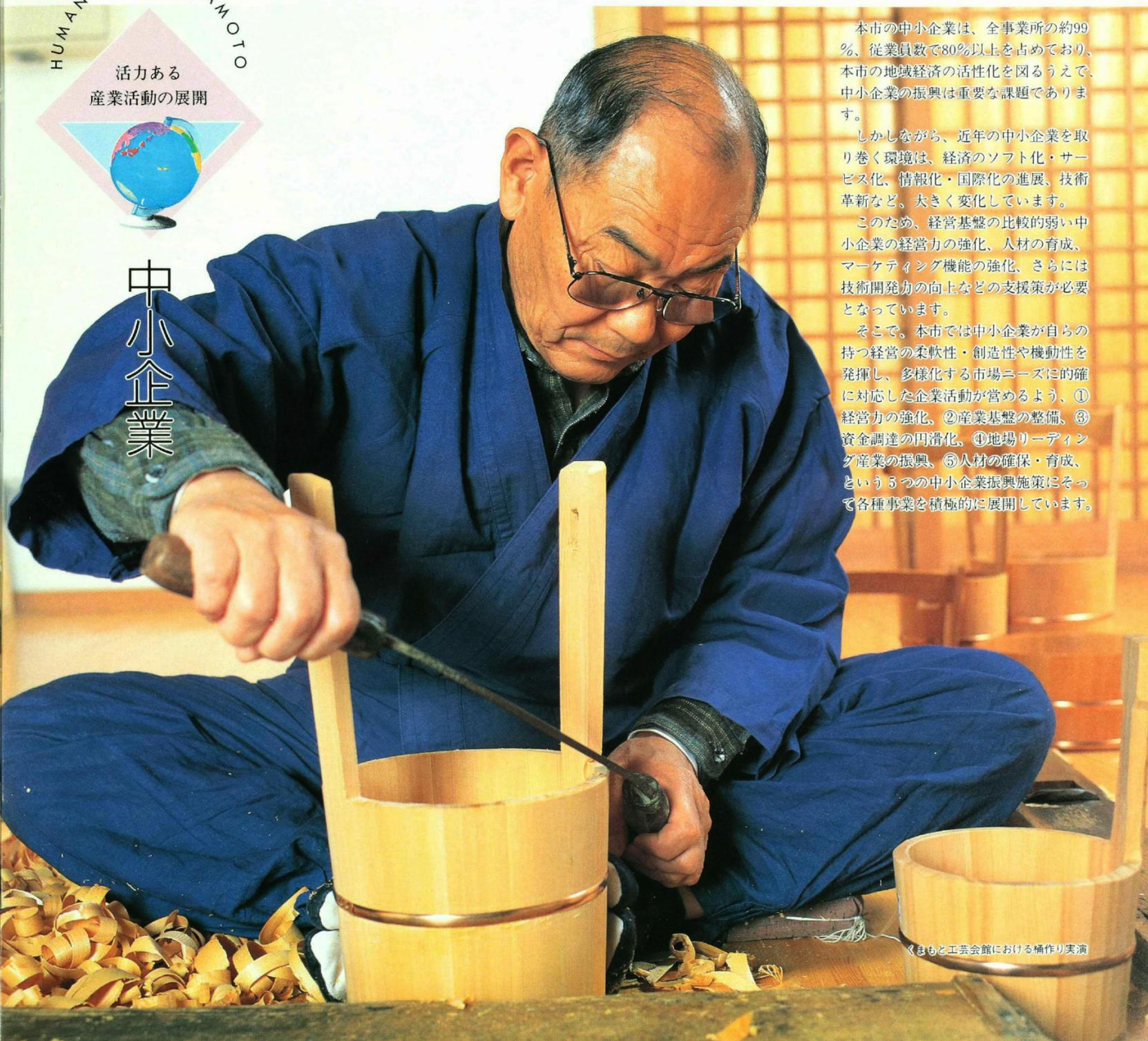
この中で、ローカルキャプテンは、公的施設を中心として、広域に公衆端末機を設置し、観光情報、コミュニティ情報などを提供しています。又、ケーブルテレビは、受信可能エリアが60,000世帯、加入世帯が6,400世帯に増え、今後、双方向性の特徴を生かした活用により、医療、福祉、防災、教育等、多分野にわたって市民生活の質的向上に貢献することが期待されています。

このように、21世紀に向けて、全国的にニューメディアの普及、発達を図りながら、地域経済社会の発展を目指すテレトピア構想の中で、本市は、その情報拠点都市として、ニューメディアを活用した、活力あふれる街づくりを目指しています。

活力ある  
産業活動の展開



# 中小企業



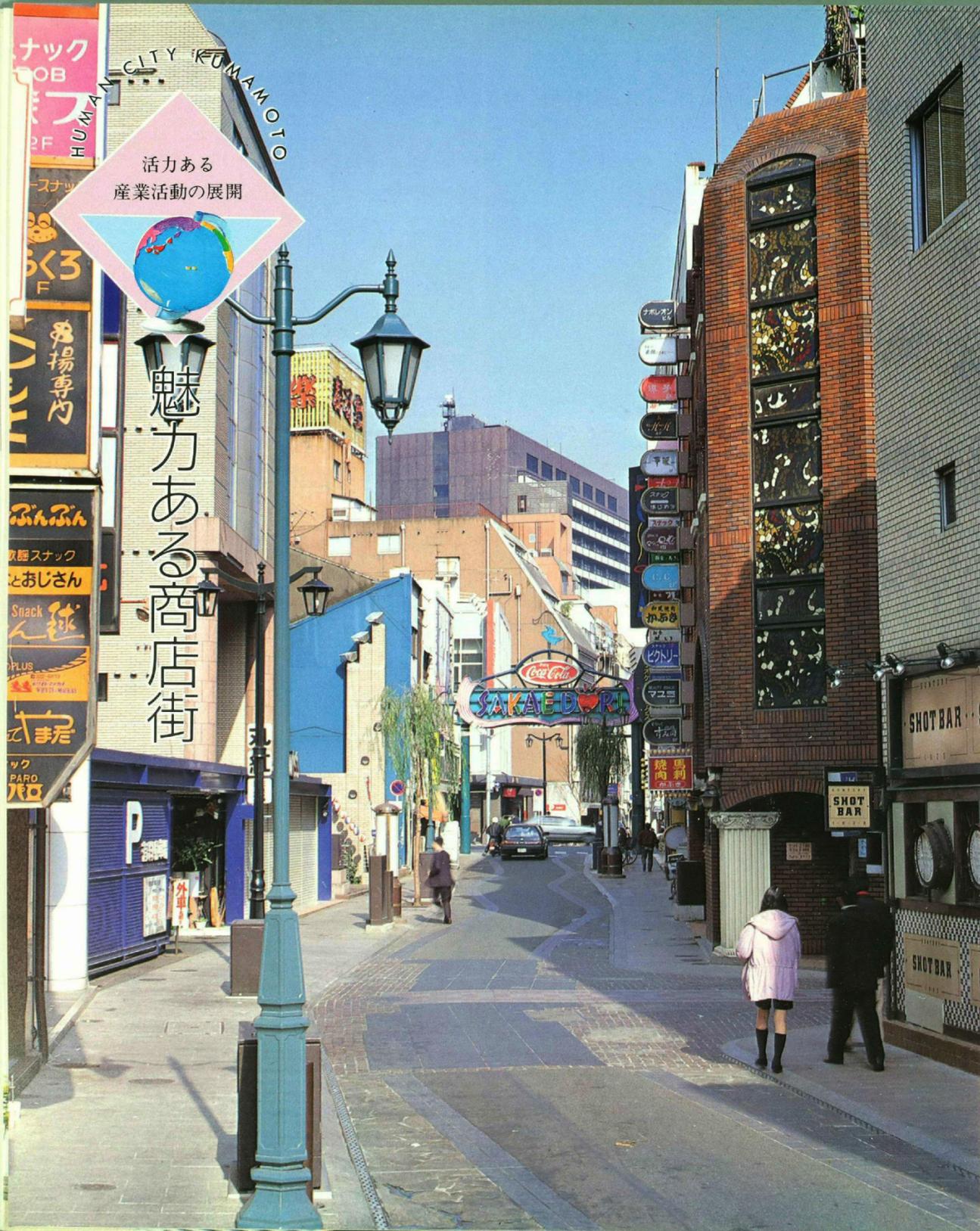
本市の中小企業は、全事業所の約99%、従業員数で80%以上を占めており、本市の地域経済の活性化を図るうえで、中小企業の振興は重要な課題であります。

しかしながら、近年の中小企業を取り巻く環境は、経済のソフト化・サービス化、情報化・国際化の進展、技術革新など、大きく変化しています。

このため、経営基盤の比較的弱い中小企業の経営力の強化、人材の育成、マーケティング機能の強化、さらには技術開発力の向上などの支援策が必要となっています。

そこで、本市では中小企業が自らの持つ経営の柔軟性・創造性や機動性を発揮し、多様化する市場ニーズに的確に対応した企業活動が営めるよう、①経営力の強化、②産業基盤の整備、③資金調達円滑化、④地場リーディング産業の振興、⑤人材の確保・育成、という5つの中小企業振興施策にそって各種事業を積極的に展開しています。

くもと工芸会館における桶作り実演



活力ある  
産業活動の展開



魅力ある  
商店街

### 中心商店街の振興

本市の上通・下通・新市街等の中心商店街は県内最大の広域商業拠点となっていますが、近年の消費者ニーズの高度化、多様化、ライフスタイルの変化、さらには大店法の改正等により、中心商店街に求められる機能も多様化してきました。そこで関係機関や地元商店街と連携をとりながら、アーケード等商店街共同施設整備の助成、あるいは駐車場・駐輪場の整備や道路環境整備などの商業環境整備を推進し、魅力ある商店街づくりを積極的に進めています。

### 地区・近隣商店街の振興

地区・近隣商店街は市民の日常生活に欠かせないものであり、地域コミュニティの核となる場でもあります。

また、地域特性を生かしたまちづくりという観点からも、地区・近隣商店街の果たすべき役割は非常に大きいといえます。

このような考えから、現在、健軍地区を対象として、ホール、集会場、ギャラリー等の文化施設整備構想を策定し商店街振興の拠点施設建設に取り組んでいます。また、平成4年度から商店街活性化のためのイベント開催補助等、ソフト事業に対する助成策も行っています。

道路環境整備により、イメージを一新した大通り

HUMAN CITY KUMAMOTO

活力ある  
産業活動の展開



工業

本市の工業は、その多くが中小企業であり、食品工業を中心に出版・印刷、金属製品、衣服、家具等都市生活と関連の深い工業が大きなウエイトを占めています。

したがって、この中小企業の活躍が地域経済の活性化を図る上で重要な役割を担っています。

そこで、中小企業の振興を支援し、活力ある産業活動の展開を図るため次の施策を推進しています。

### 1. 経営力の強化

経営資源に限りのある中小工業を支

援するため、地域のマーケティング情報・各種データベース情報の提供、経営相談・診断指導、経営セミナー等を実施しています。

また中小企業の共同化を推進するため、業界との共催事業、設備近代化及び組織化・高度化事業に対して支援をします。

### 2. 地場リーディング工業の振興

本市において集積が高く他の産業との強い関連を持つ食品、出版・印刷産業を地場リーディング産業と位置付け発展育成を図るため、業界別の組織活

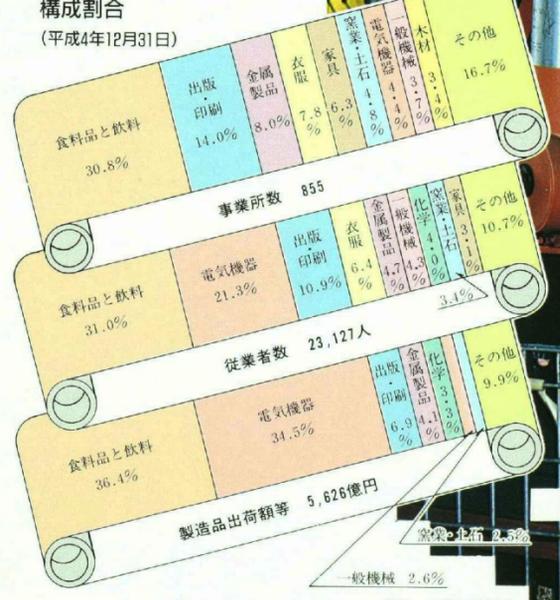
性化研究会などを開催しています。

また、中小工業の振興には、地元の方々に地場の優れた製品をご愛用いただくことが重要です。そこで、市民及び関係業界の方々に地場の製品を紹介し利用いただくため、各種フェアの開催・参加、物産振興事業などを実施しています。

### 3. 工業立地環境の整備・改善

活力ある生産空間の整備を目指して、周囲の環境と調和した開放的なガーデンファクトリーパーク（食品工業団地）づくりを推進しています。

製造業の業種別  
構成割合  
(平成4年12月31日)



資料：工業統計調査



二輪車部品の溶接・加工工場  
(シグマ工業団地)

活力ある  
産業活動の展開



農林水産業

メロンの収穫



都市農業・水産業の振興

本市の農林水産業は、北西部の中山間樹園地帯、西・南部の水田地帯、北・東部の畑地帯からなり、野菜、米を

はじめ果樹、花き、畜産などの豊富な基幹作目を有した農業と有明海沿岸におけるノリ、魚介類等の海産物に加え、地下水を利用した錦鯉等の水産業から

なっています。

いずれも立地的優位性、地域性を活かした特色ある経営が行われ、農・漁業粗生産額は県下最大となっています。

しかしながら、平成5年の長雨・台風等記録的な異常気象は、本市農業の野菜、稲作、果樹等に大きな影響を及ぼし、国においても、米不足に伴う、外国からの緊急輸入措置が講じられるなど、内外ともに厳しい環境におかれています。

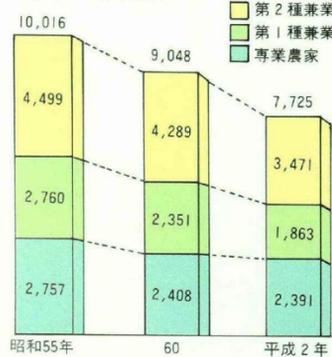
また、水産業は気象、海況の影響を受け漁業者の減少、高齢化、価格の低迷などの問題を抱えています。

このような中で、経営の自立安定と国際化社会に対応できる先進的な農・水産業としての高生産性農・漁業、高付加価値農・漁業の実現に向け、土地基盤、漁港、漁場の整備、意欲ある農・漁業者の育成、農・漁業の技術革新、生活環境の整備など新たな時代に対応できる魅力ある都市農業・水産業の振興を図っています。

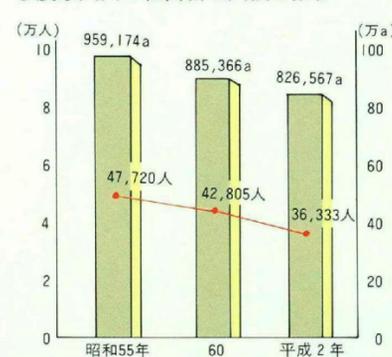
のりの摘採



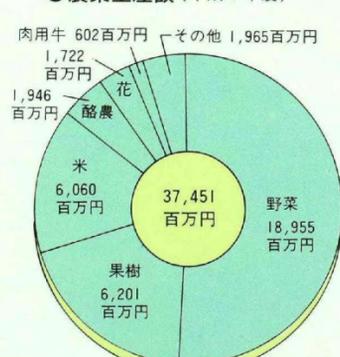
●農家戸数の推移



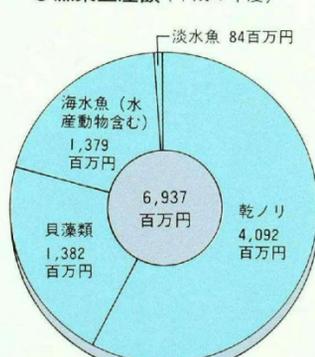
●農家人口と経営耕地面積の推移



●農業生産額 (平成4年度)



●漁業生産額 (平成4年度)



風格ある  
文化創造都市を目指して

本市は、先人が築いた優れた特色ある伝統・風土を市民の誇りとして大切に守り育み、風格ある歴史性豊かな都市を形成する。また、市民の豊かな創造力から多様で幅広い都市文化が生まれ、その新しい文化と伝統が調和した都市を目指す。



歴史都市の継承



歴史文化

熊本城

本市は豊かな歴史・文化に恵まれ、国・県・市の指定文化財が191件もあります。中でも、歴史都市くまもとの象徴となっているのが熊本城です。

熊本城は加藤清正が築いた約98万平方メートルもの広さを持つ豪壮雄大な城です。その建物の大半は、明治10年西南の役の際、薩軍総攻撃の直前に火災で焼失してしまいました。そこで史跡の保全や復元に努めてきており、今後も旧来の堂々とした姿に戻していくことにしています。

平成4年秋には台風で倒壊した長堀の復原が完成、同じ台風で被害を受けた天守閣の補修も平成5年夏に完了しました。

さらに平成2年度から整備を進めていた「三の丸史料公園」が平成5年夏

落成しました。三の丸は藩主の御屋敷(屋敷)や上級武士の屋敷があった所で、ここに東子飼町にあった県指定重要文化財の武家屋敷「旧細川刑部邸」を移築復原し、



熊本城

当時をしのばせる場所としています。

平成5年秋に「火の国フェスタくまもと'93」の時代ゾーンを中心部分として特別公開し、約24万人が訪れました。平成6年から一般公開の予定です。

坪井川リバーウォーク整備

平成元年、市制100周年事業として坪井川総合環境整備事業を発足させました。

坪井川は都心部を貫流し、かつては有明海から熊本城下に至る「舟運の水路」として、また近年は「錦鯉の泳ぐふるさとの川」として、市民に親しまれています。

この事業は、坪井川の坪井橋から春日橋までの約3.3kmの区間を遊歩道(リバーウォーク)として整備するもので、川を持つ特性と地域の個性を十分に生かした水辺空間を創造し、市民の生活環境を向上させるとともに、潜在的な歴史的文化遺産を発掘、保存し、観光資源としても活用するなど、21世紀に向けた新しい街づくりを推進するものです。

平成4年3月千葉城公園が完成し、平成6年度には、その第2期工事を予定しています。また小沢町・桜町においては、一部の用地買収を行っており、順次整備する予定です。



坪井川総合環境整備事業用地  
(坪井川リバーウォーク)  
本市は、平成元年市制100周年を記念して、都心部を流れる熊本城下坪井川沿いに、森の都にふさわしい環境整備事業をすすめています。  
計画区域は、坪井川上流の坪井橋から下流の春日橋までの約3.3kmです。  
この事業は、熊本城を中心とした都心部を歴史と緑そして川を持つ自然の特性を十分に生かしながら再開発し、都心全体に風格と落ち着きのある21世紀を展望した新しい街づくり活性化を目指したものです。  
熊本市 坪井川総合環境整備室  
TEL 328-2885

坪井川リバーウォーク整備

歴史都市の継承



史跡・文化財

史跡・文化財は先人からの贈り物であり、市民みんなの宝物です。また、個性豊かなまちづくりにも大きな役割を果たすもので、その保存・活用に努めています。

古代から人々の生活の場であった本市では約455カ所で遺跡が見つっています。特に注目されているのが、黒髪7丁目のつつじヶ丘横穴群と池上町平の池辺寺跡(清水原遺跡)です。

つつじヶ丘横穴群は古墳時代後期にがけ面を直接掘り込んで造ったもので祭祀跡がそのまま残されています。また、池辺寺は平安時代の山岳密教寺院と考えられ、大規模な建物の礎石や埴

(レンガの一種)\*、規則的に並ぶ不思議な石積みが見つかりました。

また、熊本は、時代の大きなうねりの中で、多くの偉大な先哲が活躍してきた地でもあります。

市では、関係者から寄贈された建物や資料をもとに平成6年2月3日にリデル、ライト両女史の記念館を開館し、さらに後藤是山記念館を開館する予定で準備を進めています。開館中の徳富蘇峰・蘆花、横井小楠、ジェーンズ、夏目漱石、小泉八雲の記念館・旧居や四方寄町の「御馬下の角小屋」でも、企画展の実施など内容を一層充実させていきます。

このほかのふるさとを築いてきた数多くの先哲についても、その顕彰に努めていくことにしています。

\*せん(埴、磚、甗)

東洋建築用材の一。煉瓦・タイルに類似し、土を焼いて方形または長方形の平板としたもの。周代に始まり、漢代に発達し、その後、各時代に用いられた。わが国では奈良時代に造られ、時に鳳凰・天人・唐草文様などを浮彫してある。敷瓦・壁体化粧材・天井構材などに使用。



旧細川刑部邸・銀之間



旧細川刑部邸外観



# 都市景観

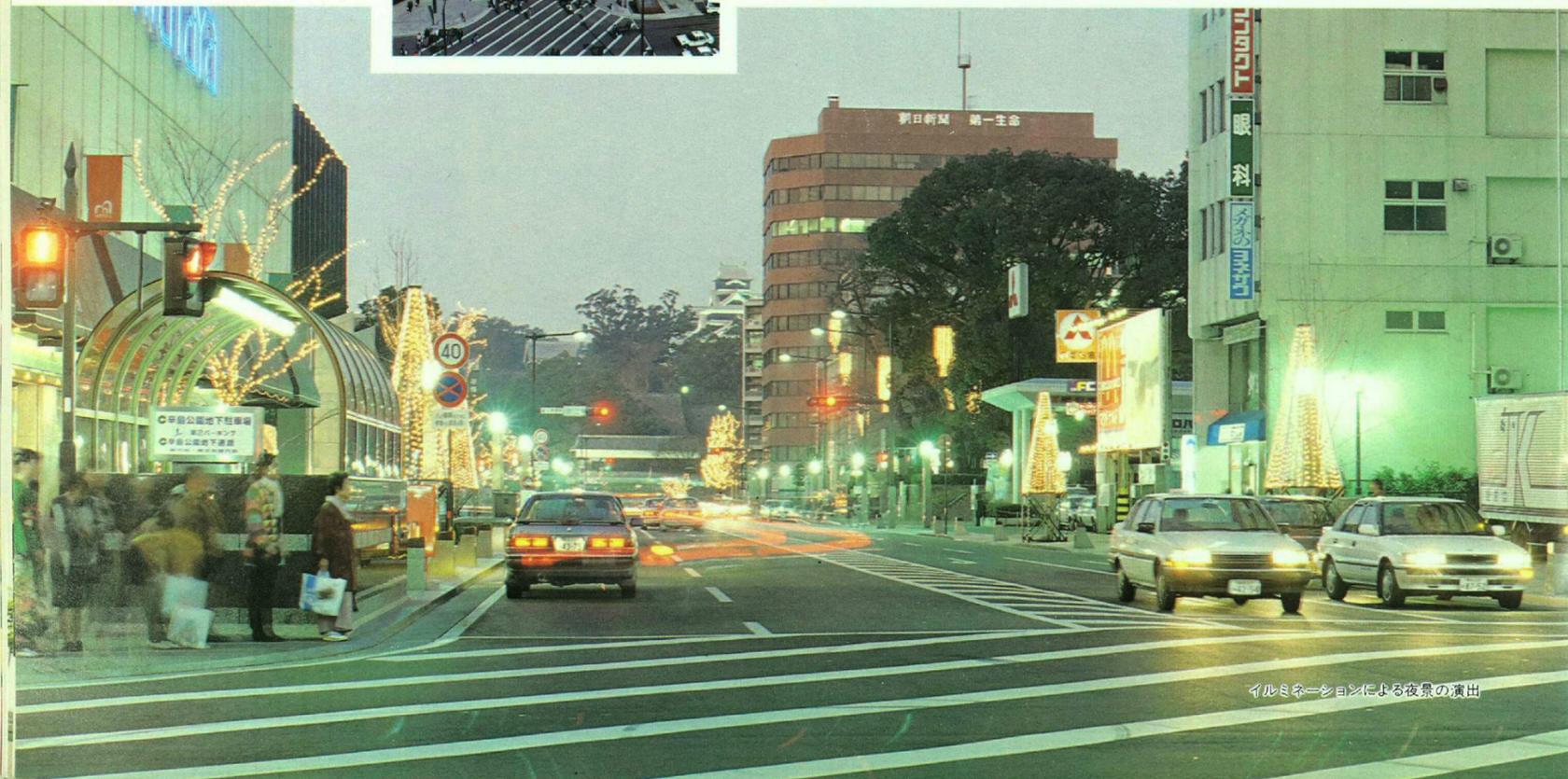
熊本城から阿蘇への眺望



正面に五守閣を望むシンボルロード

本市では歴史や自然と調和した個性豊かな都市景観の形成を図るため、さまざまな事業施策に取り組んでいます。公共空間については、シンボルロード事業や辛島公園リフレッシュ事業など本市の顔となる通りや広場をはじめとして、地域の歴史や文化を生かした景観整備を積極的に行っています。平成元年10月には、多くの皆さんの参加協力を得て総合的に都市景観の形成を進めるため、「熊本市都市景観条

例」を制定しました。この条例は、市民、事業者、行政の三者がそれぞれの責務に基づいて創意を発揮すること、景観形成のために地区指定等の制度を活用すること、市民のまちづくり活動を支援することを大きな柱としています。平成3年4月からは「大規模建築物等」の届出制度の運用を始め、地域の景観と調和した事業を行っていただくよう指導を進めています。平成3年10月には「くまもまちづくりフェア」、平成5年10月には「光の感動（ライティング・エモーション）事業」を開催するなど、魅力ある景観づくりを市民の皆さんとともに考え、協力して実施する取り組みも進めています。今後、都市づくりに関わるさまざまな分野で、熊本らしい個性豊かな都市景観をつくるための取り組みを積極的に進めることにしています。



イルミネーションによる夜景の演出



# 市民文化

## 芸術文化

本市は、新しい文化と伝統文化が調和した豊かな文化を創造し、その薫りを全国へ発信していこうとしています。そこで文化の担い手である市民一人ひとりが気軽に芸術文化に親しめるよう、身近な活動や鑑賞の場の整備に努めています。平成5年には現代日本洋画壇の最高峰の一人で文化功労者の故井手宣通画伯から生涯のほとんどの作品・遺品の寄贈を受けました。井手画伯の功績を称えとともに「美術を志す若い人たちを育てたい」という遺志に沿うため、記念美術館を設ける準備を進めています。市民自らの創作活動を奨励し、発表の場を提供する「熊本市市民美術展」は、洋画・日本画・版画・彫刻・写真の5部門のすべての応募作品を展示しており、平成5年からは「井手宣通賞」を

## 地域文化

設けました。また、市民会館、総合女性センター、産業文化会館でもそれぞれの施設の特徴を生かした自主文化事業を活発に開催しています。芸術文化活動の振興には、質のレベルアップとともにその裾野の拡大が必要です。そのため文化団体への補助や人づくり基金による個人・グループへの支援、展覧会などにあたっての賞状、賞金の交付、文化行事の後援などを行っています。高度な芸術活動や市民の身近な文化活動の拠点となる施設の整備・拡充を進めています。市民会館、産業文化会館、総合女性センターなど既存の施設をさらに充実させるほか、特色を持った地域文化施設の整備なども検討していく予定です。

## 学術研究

本市は、文教都市としての伝統、豊かな自然環境、充実した都市機能などを生かし、学術研究の拠点都市として発展すべく力を注いでいます。具体的には、環境総合研究所、水産技術センターなどの公的研究施設の建設・整備、市立大学設置に向けた調査・検討など、積極的な施策を展開しています。また、学術研究の活発化を図るため、様々な研究機関の交流活動への支援や優れた研究者の招聘などを行っています。さらに、希少動物保護の観点から、世界でも珍しい金縷猴の学術共同研究を行っています。今後も、学会の誘致、シンクタンクの設定など、積極的に推進していきたいと考えています。



市民美術展に写真部門を増設



故井手宣通画伯作品寄贈の記者会見